

*Drinking in Context:
Patterns, Interventions,
and Partnerships*

『飲酒文化の社会的役割』

様々な飲酒形態、規制が必要な状況、関係者の責任と協力

Executive Summary 概要

著者

ゲリー・スティムソン

マーカス・グラント

マリー・ショケ

プレストン・ギャリソン

監修者

新福尚隆

協力

International Center for Alcohol Policies (ICAP)

国際アルコール政策センター

ASAHI BREWERIES, LTD.

アサヒビール株式会社

本書が伝えようとしている 主要なメッセージは何でしょうか。

本書を著す起動力は、アルコール政策に対するいくつかの新しい手法を公にする時期が来たという確信を共有したところから発しました。本書には基礎をなすテーマが3つあります。1つ目は「様々な飲酒形態」で、これは社会におけるアルコールの地位を理解する最善の道です。2つ目の「規制が必要な状況」は、文化の違いに最大限の配慮をしています。そして、3つ目の「関係者の責任と協力」では、全体として社会の価値観を反映する政策を展開するための絶好の機会を示しています。よって、本書の主要な表題となるわけです。アルコール政策の選定のなかで、社会はある行動を奨励する一方で別の行動を妨げる方法の選択に直面しています。多くの国でアルコールは定着しています。「文化の枠組み」の中で飲酒するようになることは、最もよい形でアルコールと共存する術をどのようにして学んでいくか、ということなのです。

どんな人に向けた本でしょうか。

たくさんの方がそれぞれに、実際に効果のあるアルコール政策を理解することに関心を持っています。本書は幅広い読者層に向けられています。政策立案者、公衆衛生や社会政策の専門家、医療関係者、科学者、研究者、アルコール飲料業界のメンバー、教育専門家、予防プログラムのスタッフ、そして、一般の方々を対象にしています。

どのようにして書かれた本でしょうか。

International Center for Alcohol Policies (国際アルコール政策センター)^(注1) は大手飲料企業の後援を受けたシンクタンクで、本書の立案・作成を指導してきました。他にも、3つの機関——違法薬物の分野で広範な経験をもつInternational Harm Reduction Association (国際健康被害軽減学会)、精神面の健康を増進するための幅広い権限をもつWorld Federation for Mental Health (世界精神保健連盟)、アルコール界を支配するアングロサクソンの対応に対して、歓迎すべき対案を提供しているInstitut de Recherches Scientifique sur les Boissons (酒類科学研究所)——から作成過程で専門知識が寄せられました。本書を発展させるために、ノーマン・サートリアス教授をグループ長とする編集顧問グループが結成されました。グループが会合を持ったのは2回で、1回目は2005年4月にフランスのディボンヌ・レ・バンで、本にするための全体的な計画を作るために、そして、2回目は、2006年3月にスペインのマジョルカ島で、原稿を検討するために集まりました。寄稿文は主に、2回の会合の間に執筆され、著者個人または著者グループで受け持ちました。著者のなかには、編集顧問グループのメンバーも、そうでない人もありました。中心的編集者グリー・スティムソン教授による全体的な指導のもと、多くの寄稿文が、分量の大小はあれ、編み合わさって現在の形の本になったのです。

内容はどのようにまとめられているでしょうか。

本書は3つの主要なテーマに焦点をあてており、おおまかに3つの部分に分けられます。そのテーマとは、「様々な飲酒形態」、「規制が必要な状況」、「関係者の責任と協力」です。

「様々な飲酒形態」

アルコール政策に対する新しい手法を論じた導入となる章に続いて、これまでの飲酒行動を述べるやり方が主として消費水準の強調を常としてきたことに比べ、第2章ではもっと

微妙な感覚を汲んだ方法をどのように提供できるかを述べていきます。また、飲酒形態を定義する際の背景の重要性が繰り返し強調されています。第3章では、比較的単純な評価手順によって価値ある洞察や介入に対する基礎の形成がどのように可能になるかを示しています。

注1) ……International Center for Alcohol Policies (ICAP: 国際アルコール政策センター) は非営利組織で、その使命はアルコール飲料業界、公衆衛生界、その他アルコール政策に興味を持っている方々との対話と協力関係を通じて、社会におけるアルコールの役割についての理解を促進することであり、アルコールの乱用を世界的に減少させるのを支援することです。ICAPは世界的大手の飲用アルコール生産社の後援を受けています。本書に記載した見解は著者個人のものであり、必ずしもICAPおよびその後援企業、International Harm Reduction Association(国際健康被害軽減学会)、World Federation for Mental Health(世界精神保健連盟)、Institut de Recherches Scientifique sur les Boissons(酒類科学研究所)の意見を反映するものではありません。

「規制が必要な状況」

このように、不適切な飲酒行動に関連した問題の解決法を探るにあたって、本書では万人向けの方策よりも、特定の場所における特定の問題を扱う、「規制が必要な状況」を中心に述べています。第4章では、その全体像を説明します。次いで、3つの特殊な分野への介入に焦点をあてます。飲酒運転(第5章)、公序良俗の乱れ(第6章)、若年層における飲酒(第7章)をとりあげたのは、世界中で最も憂慮されていると思われる問題だからであり、また、実行可能な働きかけによってうまく取り組まれてきた分野だからです。第8章ではひとつの試みが紹介されています。評価と政策展開への実際的な取り組みを示す総合分析的枠組みを提供することによって、前述の3つの問題に関する討議をまとめています。

「関係者の責任と協力」

続いて本書は、主要な利害関係者が相互に関与する討議に進み、多くの利害関係者との協力関係を築く価値を強調しています(第9章)。第10章では、考えられる利害の対立を調査していきますが、これは、努力を分担して解決の共有へ導かれるような共通の地盤を見つける方法を述べるのが目的です。結論では、本書のメインテーマをいくつか取り混ぜて、さらなる協力のための機会を提案します。

本書には短い補遺があります。ここではGlobal Burden of Disease^(訳注1)の推計の基礎として用いた計算にかかわる方法論的な問題を数点述べ、飲酒の及ぼす健康上のメリットや社会費用、社会的な利点を知ることによって、さらに有益な方法にする手段を示しています。

訳注1) ……Global Burden of Disease(世界疾病負担)は、世界、地域、国家レベルでの、広範、共通かつ比較可能な疾病と傷害についての情報統計に関わるWHOのプロジェクト

Who are the contributing authors? (注2)

*Gerry Stimson, International Harm Reduction Association, London, U.K.
*Marcus Grant, International Center for Alcohol Policies, Washington, DC, USA
*Marie Choquet, Institut de Recherches Scientifiques sur les Boissons, Paris, France
*Preston Garrison, World Federation for Mental Health, Springfield, VA, USA
*Barton Alexander, Molson Coors Brewing Company, Denver, CO, USA
*Mario Argandoña, Consultant, Cochabamba, Bolivia (former Minister of Health of Bolivia)
*Florence Baingana, World Bank, Washington, DC, USA
*Linda Bennett, University of Memphis, Memphis, TN, USA
Brett Bivans, International Center for Alcohol Policies, Washington, DC, USA
Russell Carvolth OAM, Consultant, Brisbane, Australia (former Manager, Policy and Projects, Alcohol, Tobacco and Other Drugs, Queensland Department of Health)
*Walter Gulbinat, Global Network for Research in Mental and Neurological Health, Lichtenstein, Germany (former Director, Statistics, Information and Knowledge, United Nations International Drug Control Programme)
Hurst Hannum, University of Hong Kong, Hong Kong, China
Mohan Isaac, University of Western Australia, Fremantle, Australia
*Mark Leverton, Diageo, London, U.K.
*Marjana Martinic, International Center for Alcohol Policies, Washington, DC, USA
Sachio Matsushita, National Hospital Organization, Kanagawa, Japan
Martin McKee, University of London, London, U.K.
*John Orley, Consultant, Guernsey, Channel Islands (former Programme Manager, Division of Mental Health, World Health Organization)
Crystal Park, University of Connecticut, Storrs, CT, USA
Vikram Patel, University of London, London, U.K.
*Gaye Pedlow, Diageo, London, U.K.
Brian Quigley, University at Buffalo, State University of New York, Buffalo, NY, USA
Godfrey Robson, Frontline Consultants, Edinburgh, U.K. (former Director of Health Policy for Scotland)
*John Saunders, University of Queensland, Brisbane, Australia
*Naotaka Shinfuku, Seinan Gakuin University, Fukuoka, Japan (former Mental Health Advisor, World Health Organization Western Pacific Regional Office)
Daniya Tamendarova, International Center for Alcohol Policies, Washington, DC, USA

注2) …… The asterisk (*) marks the members of the Editorial Advisory Group. The Group was chaired by Professor Norman Sartorius, University of Geneva, Geneva, Switzerland.